

遊びの中で学ぶ数の世界

大分大付属幼稚園で保育研究

【大分】大分市王子新町の大分大付属幼稚園(佐藤努園長)で28日、保育研究協議会があった。県内外の教育や行政の関係者ら約110人が参加した。

園は2021年度から「遊びや生活の中で深く学ぶ子どもを育む」対話で『感じる』『膨らむ』『広がる』数の世界」をテーマに研究を進めてきた。本年



公開保育で日頃の実践の様子を披露した園児たち。大分市王子新町の大分大教育学部付属幼稚園、撮影・仲道裕司

度が最終年度となる。

協議会では、年齢別に砂場遊びや段ボールで動物を作って遊ぶサファリごっこなどの公開保育をした。園児が日頃から遊びの中で数量や図形といった数の世界に触れ、対話を通じ理解を深めている様子を披露した。

分科会で意見を交換。鳴門教育大大学院(徳島県)

の佐々木晃教授は「幼児の主体性が育つ『対話』を考える」と題して講演した。

参加者のアンケートを集約、分析し、今後の研究に役立てる。佐藤園長は「大分県のモデル園として質の高い保育の維持、向上に努めたい」と話した。

(藤沢香)